

## 「共に生き、支え合う社会づくりを目指して」 第60回県社会福祉大会開催報告

去る十月二十日、秋晴れに恵まれた中、第六十回県社会福祉大会を県立音楽堂（横浜市西区）にて開催しました。

第一部の記念講演では、県立保健福祉大学で准教授として教壇に立つ傍ら、講演看護師として活躍する加納塩梅（あんなまぎ）さんを招き、「それぞれの誇り」と題してご講演をいただきました。看護師として三十年以上勤めた経験によるエピソードや講演の語りに、来場者は熱心に聞き入っていました。



「患者さんや家族の皆さんに『ありがとう』を伝えているだろうか」と問いかける加納さん

第二部の式典では、永年にわたり本県の福祉の推進に貢献された方々の功績をたたえ、県知事表彰、県社協会長表彰および感謝、県共同募金協会会長感謝の授与が行われました。



受賞者代表の吉川昇さん

今年度の内訳は、県介護賞（九人）、社会福祉関係者表彰（四十九人、六団体）、共同募金運動功労者表彰（二十九人、十一団体）、民生委員・児童委員永年勤続表彰（七十五人）、県社協会長表彰（四百六十三人、七十団体）、県社協会長感謝（百九十四人、十一団体）、県共同募金会会長感謝（百四十人、三十一団体）でした。

受賞者を代表して、吉川昇さん（福博栄福祉会理事長）から、「地域における社会福祉の一層の向上に努めたい」とご挨拶をいただき、大会を終了しました。

（総務担当）

## 「ドロッカー理論」と社会福祉施設のマネジメント 福祉人材現任者研修「マネジャー研修Ⅰ」開催レポート

本会では県内の福祉従事者に向けて数々の研修を実施していますが、九月には、空前のブームとなった「ドロッカー理論」を施設運営などへ反映することを目的に、「社会福祉施設における人と組織のマネジメント」と題した研修会を開催しました。

この研修は、施設長の補佐役を担うなど、運営と経営の両立について、日常的な葛藤を抱え込みがちなマネジャー層を対象としたものです。

講師の小茂田志郎さん（株アンビシヤス代表）によれば、ドロッカーは成功する法則ではなく「失敗する法則」を提起したといえます。それは「基本と原則に反するものは例外なく破たんする」という法則で、「物が大きく変わろうとするとき、常に基本・原則を確認し、組織として一貫性をもつことが重要であり、この原則を守らない組織は破たんする」という内容です。

それを踏まえた「ドロッカー・マネジメント」とは、「自己統制と目標による管理」を指し、従来の支配的管理ではなく、職員の自己決定感を生かした目標管理への転換を目指すものだと説明しました。

さらに、このマネジメントの三つの役割（①成果を上げる、②人を生かす、③社会に貢献する）を解説し、「成果」は「利益」の同義語ではなく、利用者の満足度など、サービスの受け手に現れる好ましい変化を指すこと、職員が生き生きと、生産的に働く場を用意することが重要であると説明を加えました。

また、ドロッカーの提唱するリーダーシップにも触れ、「多くの職員が使命感に基づき、自主的・利他的に活動することが組織の発展につながる。だからこそ、職員が上げた成果をしっかりと把握し、その成果を心から喜び、褒めることが大事」だとし、リーダーにならなくてはならないのはカリスマ性でなく、「真摯さ」であると強調しました。

受講者からは「法人のミッションを改めて考えたい」「マネジメントを職員に説明するのに自信が持てた」「モチベーションが向上した」などの声が寄せられています。

◆研修情報は、本会ホームページ（<http://www.kksy.jp>）に掲載中です

☎ 045-311-1429

（福祉人材研修・介護支援専門員支援担当）